

モデル事業名	メディアを通じた中山間地域の出会い・交流創出プロジェクト
活動団体名	特定非営利活動法人 メディアネット宇陀
ホームページ	http://medianetuda.jp
所属/担当者名	運営委員・CATV 番組制作部長 高見省次
連絡先	TEL 080-3034-1229 Eメールアドレス faith.in.you@kcn.jp
活動地域	宇陀市

● 活動地域の概要

- ▶ 宇陀市は奈良県の中山間地域、大阪と名古屋の間に位置する高原のまちであり、平成18年1月1日に合併によって誕生
- ▶ 交通の利便性に恵まれながら、人口は減少の一途を辿り、高齢化と過疎化による集落機能の維持が困難な地区や、耕作放棄地など自然環境の荒廃が進む地区が増加

総人口；平成7年までは4万人前半台で推移→平成12年には4万人台を割り込む→平成17年37,183人（国勢調査）

年齢構成；平成7年を境に老年人口比率が年少人口比率を上回り、平成17年には老年人口比率26.0%、年少人口比率11.4%と急速に少子高齢化が進展



間伐されず放置されたままの森林



深刻な鳥獣被害と損なわれる生活環境・里山景観

● 活動地域の課題

- ▶ 市内には、国宝室生寺や重要伝統的建造物群保存地区・宇陀松山といった1級の歴史資源のほか、高原の豊かな自然を土壌とした伝統と特色ある農林畜産資源を有しているが、それらが地域の活力再生にあまり活かされていない
- ▶ 素晴らしい資源を有しているにも係らず、住民がその価値やそこでの営みを認知しておらず、また個々の活動が「点」に留まっている。
- ▶ 地域の実情を伝え、シーズとニーズを結び付けられる人材が不足している。

● 活動の内容

・平成20年度

- ▶ 平成20年11月から宇陀市CATV 自主放送が開局するのに合わせ、住民が自らの手で、知られざる宇陀各地の人と資源とその魅力を、地域メディアを通じて生き生きと発信し、新たな出会いや交流を創出しようと、NPOを立ち上げ活動を開始した。20年度は、事業を実施するためのシステムづくりを試行錯誤しながら進めた。組織作りにより、ボランティアや有償スタッフなど人員・人材確保に努め、資金集めやビジネスプランづくりを行った。
- ▶ CATV 番組制作については、宇陀市と協力して、情報収集→企画→取材・撮影→編集という一連の流れを繰り返して番組制作の要領やスケジュールを確立し、毎月2番組を市内約12,000世帯向けに放送した。ホームページを開設し、番組を動画公開するとともに取材情報を文字や写真で随時アップデートし、市外に発信した。また、ホームページを使って都市部住民にWebアンケートを行い、宇陀市のイメージや交流を行うための希望などを調査した。

・平成21年度

- ▶ 番組制作のシステムが概ねできあがったことを受け、21年度はコンテンツの充実に努めた。
- ▶ 取材・撮影対象として、地域の伝統行事や歴史文化、観光スポット、住民主体の様々な催しやまちおこし・村おこし、農産物ブランド化など産業活性化の取り組みなどを取り上げた。合併した4町村のいろんな話題をバランスよく取り上げ、域内の情報共有や住民の一体感の醸成を図った。
- ▶ ホームページは、より見やすくタイムリーでインパクトのあるものにするべく、デザイン、色合い、構成などリニューアルを実施中。また、地域ミニコミ紙と連携して、メディアネット宇陀の取材記事や番組表を掲載するなど、CATV、インターネット、紙の多様な媒体を組み合わせたメディアミックスを進め、より効果的な情報発信のしくみづくりにも取り組んでいる。

● 活動の成果

・平成20年度

- 第1に、まちの情報発信力を強化することができた。地方分権時代に突入してまちづくりも競争となり、地域資源のPRはますます重要になっているが、宇陀市にはマスコミの記者も常駐しておらず、まちの情報発信が脆弱だ。こうした状況では地域メディアが重要であり、市がデジタルCATV網を敷設する機会をとらえ、地域メディアの強化を図ってきた。本モデル事業を活用して、情報量が圧倒的に大きい動画による情報発信を、住民主導で継続的に行っていく基礎ができた。
- 第2に、住民のまちづくり活動をバックアップできた。まちの活性化に大切なのは、住民のさあやるぞというモチベーションであり、ローカルテレビは主催者のやる気を大いに後押しできることがわかった。例えば、黒豆作りに情熱を傾ける農家の人々の、ブランド化に向けたPRイベントを番組にして放送したところ大いに喜ばれ、売上也伸びて市や県も黒豆を宇陀の特産物にしていこうと動き始めた。また、過疎の村を何とか活性化したいと始まった村おこしのイベントを取り上げたところ、主催者は大いに喜んで、来年に向けてさらに士気が上がった。「まちで頑張っている住民を応援する」ことが、今後も私たちの活動の原点になる。
- 上記活動の成果として、メディアネット宇陀の番組制作に対し、市や住民、催しの主催者などから一定の評価を得た。その結果、21年度から番組数をこれまでの月2番組から4番組に増やしてほしいと市から要請があった。



撮影中のスタッフ

● 平成21年度

- 前年度に続き、CATV番組制作でまちの様々な話題を取り上げた。放送を重ねてきたことで、視聴率も上がってきた感があり、住民からの反応が伝わってくるようになった。例えば、昨年10月に始めた「サークル紹介」というコーナーで取り上げたタップダンスのサークルからは、放送を観て新人が入ったとの喜びの声をいただいた。取材を依頼してくる団体も少しずつ増えてきた。
- 最近の番組では、視聴者とのコミュニケーションを活発化するため、クイズやプレゼントなどを取り入れている。お店のPR番組をしたところ、放送を観ての問い合わせや予約があったと喜んでいただいたり、温泉のPRに際し、塩サウナをキーワードにスタンプが3倍もらえる特典をつけて放送したところ、ロコミで広まったこともわかった。傷ついた犬の里親探しの番組を放送したところ、多くの問い合わせがあり、たまたま倒産したブリーダーの宙に浮いた犬10匹ほどを処分場ではなく里親に引き取ってもらうことができた。地域メディアとして何ができるかを常に考えながら企画を行うよう努めている。
- インターネットによる動画発信も少しずつ効果があがってきた。ホームページ立ち上げ時には、宇陀出身で現在遠方にお住まいの方から、気になっているふるさとの様子がよくわかるとメールをいただいた。最近では、宇陀雑穀友の会での粟や黍の収穫を取材した番組のDVDの購入依頼が吉野から来たり、番組に登場するレポーターが橿原で大阪の人に声をかけられたり、メディアネット宇陀のホームページを見ての反響が感じられるようになってきている。20年度は平均一日40件程度のアクセスであったが、最近では平均50件~60件に増加してきている。さらに見やすくインパクトがあり、情報更新がタイムリーに行えるようリニューアルを企画し、作業に入っているところである。

● 今後の課題及び展望

・課題

- 動画を中心に地域メディアによるまちの情報発信の基盤整備はかなりできてきた。住民の反応も少しずつ出てきている。しかし、情報発信によって多くの地域資源を発掘しまちの発展につなげていくために必要な人材や資金は、まだまだ不足していると言わざるをえない。取材、撮影、編集など、入手した情報を整理・加工してCATV、インターネット、ミニコミ紙などのメディアに載せていくという作業は、ある程度の知識、経験、熟練が求められる。番組制作、ホームページによる発信の取材員として、今後どの程度住民参加が得られるかが課題である。また、放送には一定の技術レベルが求められるため、すべてを無償ボランティアで運営することは難しい。事業を継続し、発展させていくためには、有償スタッフの人件費を始め制作費をまかなうための運営資金をどのように調達していくのが大きな課題である。

・展望

- コンテンツの充実に向けては、今年は平城遷都1300年にあたり、奈良県では各地で様々な催しが開催される。宇陀市も年末年始に室生寺でカウントダウン開幕イベントが行われ、メディアネット宇陀でも12月にPR番組を放送した。引き続き1年を通して、室生寺を中心に行われる催しなどを広く取り上げ、地域の内外に発信していきたい。また、お店紹介や産業支援のためのシリーズ企画なども検討していきたいと考えている。
- 取材体制の強化に関しては、ITに精通した若手スタッフの参加できる環境作りや研修会などによるスキルアップの機会など人材育成のための方策を講じていく必要がある。また、情報発信の効果アップのため、引き続きCATV、インターネット、ミニコミ紙のメディアミックスを進めていくほか、道の駅や子供のもり公園など域外からの来訪者が多い施設と協力し、既存のモニターで番組を再生し、まちの最新情報を発信するような工夫もしていきたい。